

平成18年度
公立学校早期適応プログラム（プレスクール）
実施報告書

平成19年3月
愛知県国際課多文化共生推進室

1. 知立市実施分

(1) 実施期間

平成18年11月2日(木)～平成19年3月23日(金)

(2) 実施場所(拠点)

知立市立知立東小学校

(3) 適応指導員

関谷たかね

2. 小牧市実施分

(1) 実施期間

平成18年11月2日(木)～平成19年3月23日(金)

(2) 実施場所(拠点)

小牧市立大城小学校

(3) 適応指導員

村田知美

1. 知立市实施分

プレスクール開催スケジュール

11月2日(木)	東浦町立石浜西小学校現職教育研究会参加
11月6日(月)	知立市教委学校教育課、知立東小学校との打ち合わせ ・学校教育課より知立東小学校入学予定の新1年生の情報提供協力
11月8日(水)	知立東小学校 放課後教室視察
11月9日(木)	愛知教育大学 リソースルーム視察、教材等見学
11月13日(月)	市教委学校教育課、市児童課、保育園関係者と打ち合わせ
11月14日(火)	未就園児家庭訪問(プレスクール開講説明、参加可否確認)
11月24日(金)	知立東小に中川精神科医来校 愛知教育大学岡田教授とともに高根保育園、児童センター見学
11月28日(火)	高根保育園訪問(児童選定)
12月1日(金)	知立東小学校にてプレスクール開始
1月9日(火)	なかよし保育園訪問(児童選定)
1月22日(月)	高根保育園にて授業開始
1月23日(火)	なかよし保育園にて授業開始
1月26日(金)	高根保育園 ブラジル国籍児童全体授業開始(週1回)
2月2日(金)	知立東小5年生2名 日本語授業開始(~3/5)
2月6日(火)	知立東小学校入学説明会視察
3月8日(木)	知立東小にて未就園児1名授業開始 なかよし保育園児、知立東小にて学校体験授業開始(全3回)
3月9日(金)	高根保育園児、知立東小にて学校体験授業開始(全3回)
3月23日(金)	プレスクール授業終了

公立学校早期適応指導員

最終活動報告

知立市担当 関谷たかね

1. プレスクール開講期間 2006年12月1日～2007年3月23日
2. 開講場所 知立東小学校を拠点に高根保育園、なかよし保育園を巡回
3. 概要

知立市（知立東小周辺）の外国籍児童状況

プレススクールの活動拠点とした知立東小学校は、周囲を知立団地に囲まれており、知立市におけるニューカマーの出稼ぎ労働者の殆どが、この知立団地に住んでいる。そのため知立市の中でも、この地区は外国籍児童が集中する「特別区」となっている。知立東小の全校生徒の3分の1が外国籍児童であり、転出入も多いため日本語指導が必要とされる児童は多く、愛知教育大学の協力で日本語クラスも充実しているが、3クラスある日本語学級も指導が追いつかないのが現状である。

2007年度知立東小への入学予定者（2月8日入学説明会現在）は全53名中27名（50.9%）が外国籍児童、このうち6割以上が認可された日本の保育園に通っている。実際に児童の日本語能力を見ていくと、不就園児やブラジル人学校通園児の日本語指導の必要性はもちろんのこと、日本の保育園に通う子供の中にも、途中入園した子どもや、言葉が著しく未発達な子供など、日本語指導を必要とするケースがあった。

活動場所について

知立東小学校を拠点に、高根保育園、なかよし保育園を巡回した。

12月開講当初は知立東小学校で活動していた。保育園児の送迎は指導員が担当したが、学校と保育園の往復に1時間近くの時間がかかった。児童・指導員ともに毎回の負担が大きいことから、市教委学校教育課、児童課、保育園と話し合い、指導員が保育園に出向いて授業をすることになった。

これにより、送迎が不可能でプレススクールに参加できていなかったなかよし保育園児もプレススクールに参加できることになり、高根保育園では週1回ブラジル人児童全員参加の授業も行った。

小学校に早く適応するというプレススクールの目的から、3月には高根・なかよし両保育園児が3回ずつ知立東小での学校体験授業を行った。

送迎について

不就園児は父兄が送迎を行った。

高根・なかよしの2保育園児の知立東小での学校体験授業では、高根保育園（8名参加）は指導員と保育士1名が行い、なかよし保育園児（2名）は指導員が送迎を行った。

上重原保育園にブラジル人学校から児童が転入してきたため受講を希望、また、入学説明会（知立東小2月8日）にて不就園児童2名の日本語能力が著しく低いことが判明したが、2件とも送迎不可能のため参加できなかった。

クラス概要

クラス	活動場所	活動日	時間	参加人数	
高根個人	高根保育園	月・木	13:00～14:00	4	(内不就園1)
高根個人	高根保育園	火・金	13:00～14:00	4	(内不就園1)
高根全体	高根保育園	金	10:30～11:30	12	
なかよし	なかよし保育園	火	15:00～16:00	1	
なかよし	なかよし保育園	木	15:00～16:00	2	
不就園個人	知立東小学校	月火木金	9:30～10:30	1	
5年生	知立東小学校	火・木	10:50～11:35	2	

参加児童(全18名 男子9名、女子9名、全員ブラジル国籍)

		氏名		参加クラス	
不就園	1	S . M	男	高根個人、	
高根 保育園	2	K . U . M	男	高根個人、高根全体	
	3	D . D . N . K	女	高根個人、高根全体	3月転居
	4	S . T	女	高根個人、高根全体	
	5	S . R . U . E	男	高根個人、高根全体	
	6	M . T . A	男	高根個人、高根全体	
	7	M . B . D . A	女	高根個人、高根全体	3月転居
	8	T . I	男	高根全体	
	9	T . H	男	高根全体	
	10	N . M	女	高根全体	
	11	S . U	男	高根全体	
	12	S . R	男	高根全体	
	13	S . U	女	高根全体	
	なかよし 保育園	14	S . A	女	なかよし、
15		M . B	女	なかよし	
ブラジル学校	16	N . M	女	不就園個人	3/8～
知立東小 5年	17	P . N	女	5年生	2/2～3/5
	18	M . U	男	5年生	2/2～3/5

No.13 S . Uさんは、日本語力が十分であったため、3月より不参加。

4. 活動内容

< 個別クラス >

不就園児、無認可保育園やブラジル人学校通園児、日本の保育園通園児は、それぞれ日本語力も、入学までに習得すべきハードルも違う。プレスクールでは、児童の習得度になるべく対応するため、また個々に話しかける機会と、児童がそれに答える機会をより多く持つように、少人数制を基本とした。どのクラスも、指導員は基本的に日本語のみを使用した。

不就園児（S.M君）は、集団生活に慣れるため高根保育園個人クラス と の両方に参加した。保育園児は既知である基礎的な日本語を身につけるため、活動の中に「日本語学級」の内容を意識した働きかけを行った。

3月から参加したブラジル人学校通園児（N.Mさん）は、他のクラスの子供と日本語レベルに差があったため、個人指導となった。

	ねらい
不就園児	基礎的な日本語会話の習得、日本語の環境に慣れ親しむ 集団生活に慣れる 運筆や知育遊びなど、発達段階に合った働きかけを受ける
ブラジル人学校通園児	基礎的な日本語会話や語彙の習得 日本式の集団生活に慣れる
保育園通園児	個々の発達と興味に合わせ、より幅広い語彙を習得する。 挨拶、返事、身だしなみから始まり、学習することに興味を持ち、学習に必要な態度を身につける。

授業の流れ（個人クラス 計60分）

	内容	主な使用教材
5分	あいさつ、あいうえおの歌	50音表（知立東小・杉浦先生） 自作 あいうえおの歌
15分	語彙 絵カード	自作 絵カード くもん 大判ひらがなカード その他 くもん絵カード類
20分	運筆活動	学研 はじめてかくひらがな 教育同人社 新版はぎとり式ひらがな練習 アソビ-ションカード 練習帳（豊橋・築樋先生）
15分	文字カード・数字カードでゲーム	自作 くだもの数カード、 自作 数の絵カード（車、りんご） 自作 数字カード くもん 絵カード類
5分	片付け、おわりのあいさつ	

< 高根保育園 全体クラス >

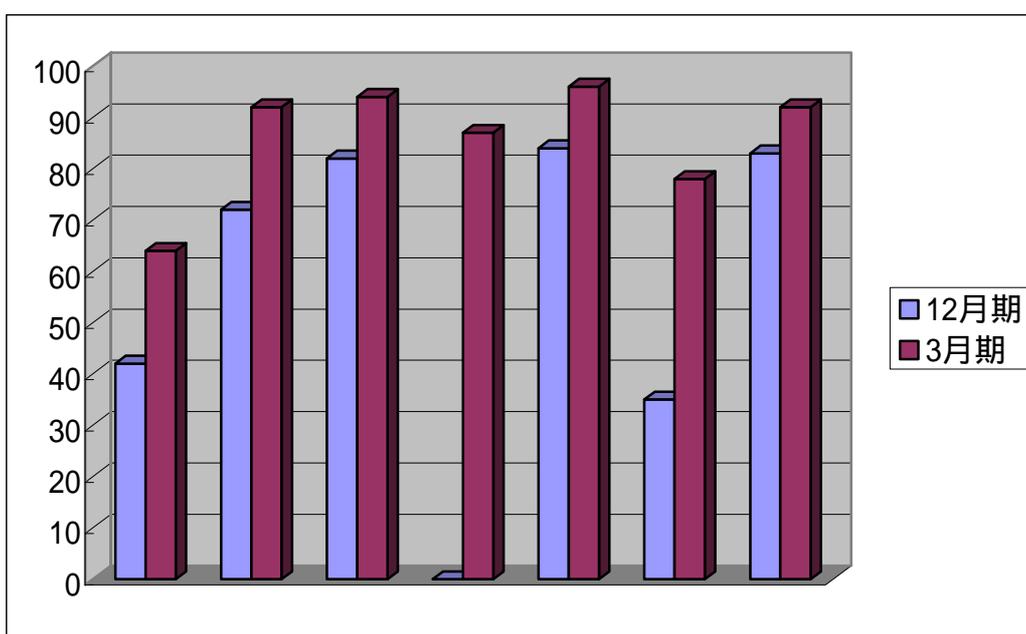
日本語のことばに興味を持って幅広い語彙に触れること、学校生活に必要なあいさつやきまりを理解することをねらいとして授業を行った。授業の流れは個人クラスと同じであるが、最後の学校体験授業では、校内見学を通してトイレの使い方や学校内でのきまりなどを学ぶ。

< 5 年生クラス >

2 月より、知立東小在籍 2 年程度の児童で、日本語学級は卒業したが基礎日本語が十分に定着していない 2 名について日本語の補習授業を行った。当初週 3 回（月・火・木）だったが、学校の授業との兼ね合いで週 2 回（火・木）とし、3 月 5 日までの全 8 回行った。基本的な文型（日付、存在動詞、形容詞、副詞）の確認をしながら、語彙の補強を行う。

5. 活動成果

< 個別クラス >



語彙調査結果	M 不就園	U 高根	T 高根	R 高根	T 高根	A なかよし	B なかよし	平均点
12 月期	42	72	82	-	84	35	83	66.3
3 月期	64	92	94	87	96	78	92	86.1
伸び率	22	20	12	-	12	43	9	19.7

12 月末・3 月末に語彙調査（豊橋市語彙 100 問調査）を行い、結果を比較した。

12 月末に 70 点以下だった子供の伸びが、20～40 点増と大きい。43 点増の A は、7 月からなかよし保育園に途中入園した。毎日、より多くの日本語に触れたことが言語獲得の大きな鍵となっている。不就園の M（22 点増）、12 月期に 72 点だった高根保育園の U（20 点増）は、語彙ばかりでなく読み書きでも大きな成長を見せた。

12 月期に 80 点台だった子供たちも平均 10 点増、読み書きの面でも大きな成果があらわれた。名前が書けるようになった子、数を読めるようになった子、12 月期には文字と音を結び付けられなかったが、簡単な絵本を読めるまでに成長した子もいた。

しかし、90 点を獲得している保育園通園児童でも 1 年生の授業に参加するには語彙が不十分であるのが現状で、4 ヶ月という短い期間で出来ることには限界があることを実感した。

個人クラスの成果

氏名		参加クラス 参加時間数	初期	3 月期
S . M	男	高根個人 高根全体 48 時間	日本語初級、ひらがな読み× 集団の中では緊張し無口で、友達と交流せず。	日本語学級 前半程度の会話力。 清音のひらがな 20 文字程度を読み、 絵本にも興味を持つようになった。集 団生活に慣れ、喧嘩の仲裁などもする。
K . U	男	高根個人 高根全体 24 時間	日常会話はできるが、母語も強い。 文字と音の結びつかず、ひらがな読み ×。名前は画像で捉えているため、書 く順番が違ったり、正しい形にならな かったりした。	大幅に語彙が増えた。3 月に入って、 ようやく文字と音が結びつき、5 文字 程度の文字を書いたり、読むようにな った。名前を正確な順序で書けるよう になった。
S . T	女	高根個人 高根全体 18 時間	日常会話はできる。一定時間集中して 作業することができない。また、文字 と音が結びつかない。名前も画像とし て捉えているため、書く順番が違う。	集中力がある程度持続するようになった。 文字を理解し、20 文字程度の清 音のひらがなを読めるようになった。 フルネームをカタカナ・ひらがなで正 確に書けるようになった。
S . R	男	高根個人 高根全体 18 時間	日常会話はできるが、出来事を説明す るのは難しく、母語が強い。母語・日 本語ともに発音に問題がある。ひらが なの読み×、フルネームをカタカナ・ ひらがなで書ける。対人関係が上手に 作れないため、トラブルが多い。	語彙が増え、50 音の並びを理解し、 濁音、拗音なども読めるようになった。 対人関係を上手くし、トラブルをなく すには長期的な見守りが必要。また、 発音についても、文字からのアプロ ーチなどで長期的な指導が必要。
M . T	男	高根個人 高根全体 23 時間	あいさつや姿勢はよく出来、日常会話 (聞く・話す)は比較的できるが、書 く・読むことが苦手、ひらがなの文字 と音の結びつきが曖昧。数字の読みも ×。	友達のポルトガル語での会話を指導員 に日本語で教えてくれたりする。8 以 外の数字と、ひらがなも自分のなまえ 「た」と「し」を読めるようになった。 さらなる運筆練習、文字指導が必要。
S . A	女	なかよし 13 時間	身の回りの語彙、基本文型など、全般 的に語彙が少ない。ひらがな、数字の 読み×。	大幅に語彙が増えた。50 音の並びを 理解し、10 文字程度の清音のひらが なと数字を読めるようになった。
M . B	女	なかよし 6 時間	身の回りの語彙などの不足。 数字を数えることが苦手。 名前を書く際、ひらがな・カタカナの 混合(ビとりあ)	全般的に語彙が増えた。ひらがな習得 に興味を持ち、清音、濁音、拗音を少 しずつ読めるようになった。フルネ ームをカタカナ・ひらがなで正しく書 けるようになった。
N . U	女	不就園個人 6 時間	3/8 ~ 日本語初級。ひらがな読み×。名前書 き×。学校で行った語彙調査結果は 16 点/100。	「日本語学級」10 課程程度の日本語 力。ひらがな「あ」「は」「ん」を読み、 ひらがなで名前を書けるようになった。 学校生活の様子や、トイレの使い 方、ろうかの歩き方等を学んだ。

<高根保育園 全体クラス>

- ・ことばの習得に興味を持つことができた。
- ・身の回りの語彙や、学校にあるものの語彙など新出語彙に多く触れる機会を持った。
- ・名前を書いたり、文字を書いたりすることに興味を持ち意欲的に取り組んでいた。
- ・学校生活に必要なきまりや、あいさつを習得することができた。

<5年生クラス>

- ・存在動詞(ある・いる)の区別の仕方や、イ形容詞・ナ形容詞の区別、活用、副詞、助詞の使い方などを学んだ。
- ・音だけで入っている語彙や、促音・拗音・長音の間違いも多かったため、正しい文字表記を学んだ。

全体を通して

- ・プレスクールを開講したことにより、児童全体にことばを学ぶ楽しさや興味がわいた。
- ・開講当初に比べ、机に向かって集中する時間が長くなった。
- ・学校でのきまりや、あいさつを理解した。
- ・ろうかを走らない、ろうかは右側を歩く事を理解し、お互いに注意する場面も見られた。
- ・当初学校のトイレを怖がって戸を閉められない、水を流さない、手を洗わないなどの子供がいたが、毎回指導したことで徐々に改善された。
- ・不就園児は、無理なく集団生活を体験できた。また、保育園児との交流によって日本語習得にも良い効果が出た。

その他

- ・愛知教育大学の岡田先生とリソースルームの方々や、豊橋市教育委員会の築樋先生、知立東小学校日本語教室の先生方の助言と協力により、教材が充実したものとなった。
- ・知立市学校教育課、児童課、保育園のプレスクールに対する理解と協力があったため、保育園内での授業や、知立東小学校での高根保育園児全体授業などを実現できた。
- ・知立東小学校内で活動できたことで、小学校の先生との密な連絡が取れ、プレスクールに通う来年入学予定児童の情報交換や、児童が入学前に習得すべきことを知る事が出来た。

以上

プレスクール教材集

プレスクール指導員（知立） 関谷 たかね

「あいうえおの歌」

童謡「ももたろう」の歌に合わせて、50音を歌います。

リズムが良く、50音があてはまる童謡を選びました。

毎回必ず指導員が50音表を一つずつ文字を指しながら歌います。

開始2～3回で音の並びを理解し、50音表を指でたどりながら歌う子供ができました。

1ヶ月（参加6回程度）で最後まで歌える子が現れ、分からないひらがなも50音表を見て歌を歌いながら答えを探し出すようになりました。2番の最後「あ列」はなかなか難しいのですが、毎回歌っていると50音表を見ずに正確に歌えるようになりました。

～童謡「ももたろう」に合わせて～

1. あいうえお かきくけこ
さしすせそ たちつと
なにぬねの はひふへほ
2. まみむめも や ゆ よ
らりるれろ わ を ん
あかさたな はまやらわ、 ん！



「絵カード」

初級の子供たちに最初に教えるのが、この身の回りのものカードです。

指導員が絵カードを見せながら音読をした後、子供も全員音読し、一人ずつあてていきます。

その後、カードの使用バリエーションを変えて、定着をはかります。

- ・ 黒板のふちに並べて、一人ずつあて、答える
- ・ 紙芝居のように少しだけ見せながら、わかったら答える
- ・ 全部裏返しにして、好きなカードを表に返して答える
- ・ 一人何枚かを持ち、一人ずつ先生役となって前に出る。他の生徒が答える
- ・ 床に並べて、指定されたカードを取る、指定されたカードにタッチして戻る
- ・ カードを並べて、すごろくゲームをする

保育園に通う子供たちでも、保育園では使用しない「ふでばこ」「つくえ」「まど」などの語彙が入っていませんでした。掃除用具は、ほとんどが新出語彙のようでした。

<身の回りのもの >

ふでばこ、けしごむ、つくえ、いすなど

<身の回りのもの >

のり、はさみ、ごみばこ、がっこう、まどなど

<持ち物>

ハンカチ、ティッシュ、ランドセルなど

<学校にあるもの>

こくばん、ほうき、ぞうきん、ちりとりなど



「色・大きさ違い文字カード」(あ行～さ行)

指導員が文字カードを見せ、同じ文字カードを探します。

指導員が示す文字カードを、なかなか探すことのできない子供がいました。形を比較する前に、同じ形を集めるという練習が必要だと考え、同じ文字で色違いのカードを何枚も用意しました。練習を重ねるうちに友達同士「違うよ」「これだよ」と言い合いながら、正解を探せるようになりました。



「先生の家」

導入した語彙カードの確認をする際に使用します。

小窓から少しだけ絵カードを見せて、

「何がある?」もしくは「何がある?」と質問します。

子供たちから答えが返ってきたら、

「戸を開けましょう」といって開け、正解を見せます。

存在動詞「いる」「ある」の区別の練習や、「開ける」(あげる、と混同している子供が多かった)「閉める」の反復練習にもなりました。

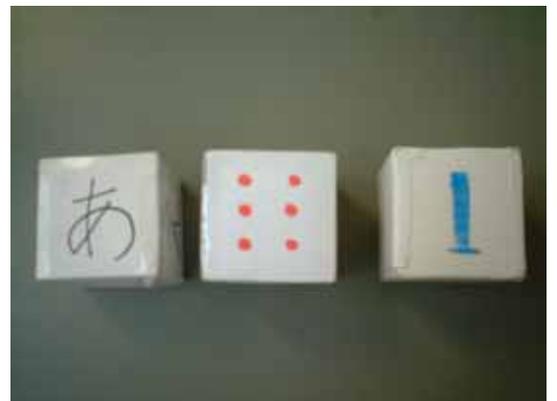


「サイコロ バリエーション」

3以上の数を数えるのに苦労する子供も多かったので、サイコロは数を数える勉強にとっても役立ちました。

子供の理解度に合わせ、数字を読めるようになったら数字サイコロ、ひらがなを読めるようになったらひらがなサイコロを使用しました。

- ・ 絵カードを並べてすごろく(数字・数サイコロ)
- ・ ひらがなカードを並べてすごろく(数字・数サイコロ)
- ・ 出た目の数のカードを集める(数字・数サイコロ)
- ・ 出た目のひらがなを言う(ひらがなサイコロ)
- ・ 出た目のひらがなを使ったことばを言う
あ あり い いぬ、など(ひらがなサイコロ)



「文字練習シート」(A4 大文字用、小文字用)

少し厚めの白い紙に罫線をひいて文字シートを作り、ラミネート加工しました。ホワイトボード用のペンを使い、布やティッシュで消して何度も使用が可能。文字を書くことに興味を持ち始めた子どもや、筆順を確認・指導したいときに使用します。



「もちものシート」(もちもの確認シート)

「もちものシート」(ランドセル)

プレスクール最後の授業に使用。

完成図を子供に見せると大喜びして作り出します。

1、もちものシート で、学校に持って行って良いもの、悪いものを確認します。特に指導したい「ハンカチ、ティッシュは忘れないこと」や、「お菓子、おもちゃは持ってきてはダメ」という確認をします。

2、持ってきてはいけないものには×を書き、切り取り線をハサミで切ります。

3、学校への持ち物はランドセルの中に貼り、いけないものはランドセルの外に貼ります。

4、出来上がったら、最後にランドセルの蓋を貼って、出来上がりです。



その他使用した教材

絵カード類

- くもん「ひらがなカード」「反対ことばカード」「くだものやさいカード」「どうぶつ」「花と木」
「こどものにほんご」動詞カード（愛知教育大学 日本語リソースルーム 藤井さんより）
しりとりカード（豊橋市教育委員会・築樋先生より）
掲示用 50音表、色、家族、体の部位のポスター（知立東小 杉浦先生より）

数のカードや、数字カードは以下のサイトのカードをダウンロードして使用しました。
名刺サイズ、写真サイズのもの、それぞれ裏に色紙を付けてラミネートしました。
知育あそび&子育てわあるど「カード知育遊び」

http://www.sakunet.ne.jp/~hayaka1/card_asobi04.html

- ・ 数カードりんご
- ・ 数カードくるま
- ・ 数字カード
- ・ 比較カード（高い・低い、大きい・小さい、多い・少ない）

運筆、文字練習類

がっけん「はじめてかくひらがな 上」 せんのれんしゅう

ひらがな書きは運筆練習を十分にした後（開講 1 ヶ月後）から行いました。

教育同人社 新版はぎ取り式ひらがな練習

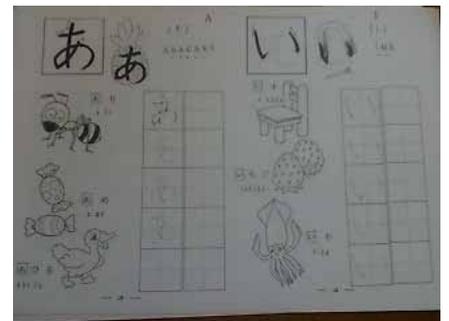
50音順に練習していきましたが、「あ」や「え」「お」など、あ行は形の取りづらいものが多く、非常に苦労しました。また、左側の語彙（未習の文字や濁音）をなぞるのも非常に難しそうでした。あ行からの提出にこだわらずに、書きやすい文字から練習していったほうが良いかもしれません。



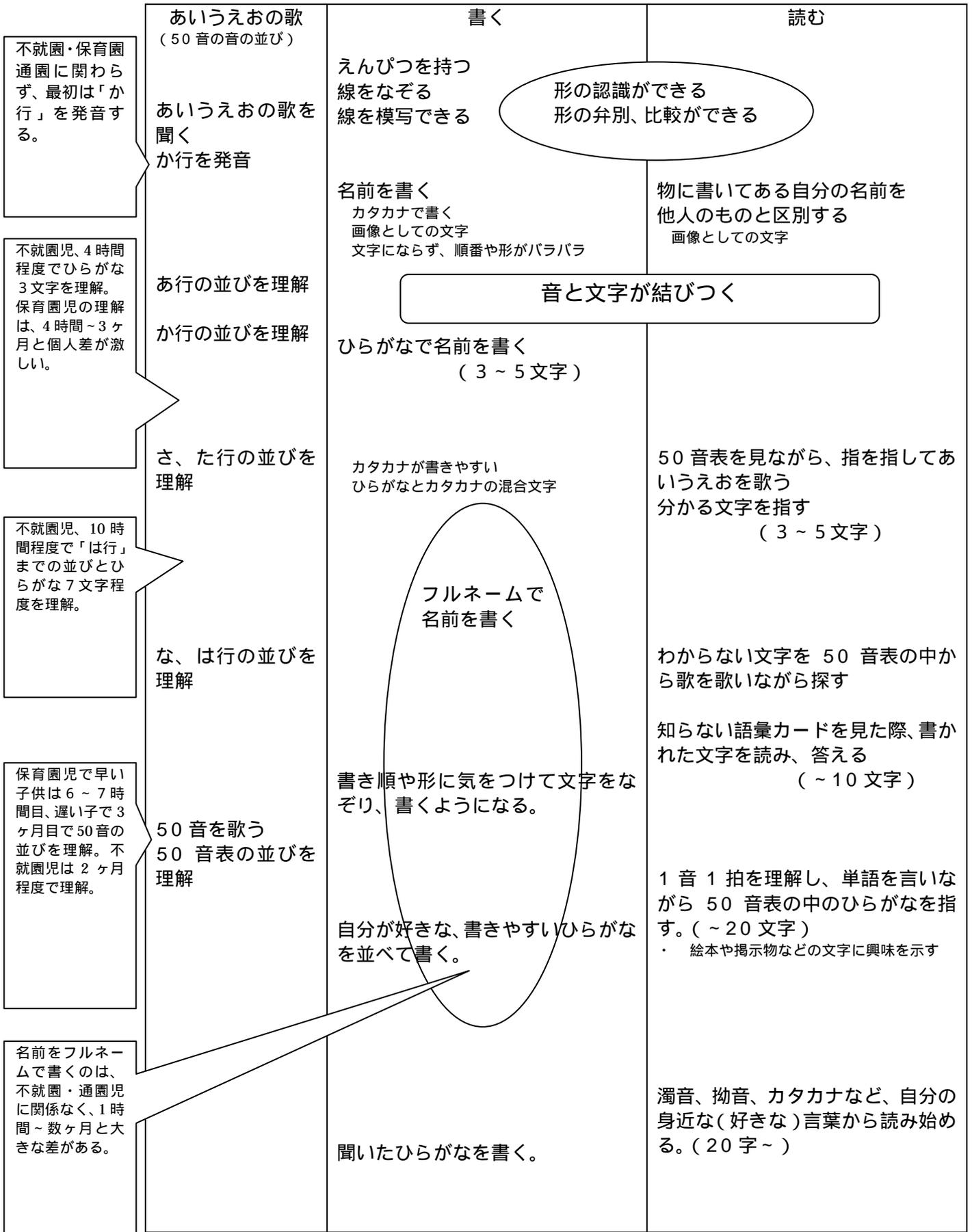
アソシエーションカード練習帳（豊橋市教育委員会・築樋先生より）

ありの「あ」ではなく、ポルトガル語アバカシ（パイナップル）の「あ」と対応させることで、ポルトガル語を使用する児童に効果のある練習帳。母語（ポルトガル語）が確立している児童には効果大。

ポルトガル語が強い子供を対象にこの練習帳を使いましたが、5歳児の子供が持っているポルトガル語の語彙が多くないため、上にあるポルトガル語もわからないものが結構あったのですが、同じ文字のみの練習で、ぬりえもできるところが良かったです。



外国人児童の読み書き習得過程



2 . 小牧市実施

公立学校早期適応指導プログラム（プレスクール）

活動報告

平成 19 年 3 月 29 日
小牧市担当 村田 知美

1. 概要

(1) スケジュール

平成 18 年

- 11 月 2 日(木) 東浦町現職教員研修会を見学
- 6 日(月) 大城小学校訪問
- 8 日(水) 愛知教育大学岡田安代助教授を訪問 カリキュラム・教材の検討
- 10 日(金) 開講案内・参加申込書の作成
消耗品・備品リスト作成・提出
- 13 日(月) 大城保育園を訪問
開講案内・参加申込書ポルトガル語訳(知立市語学相談員が翻訳)
- 13 日(月)～教室準備
消耗品、教材・書籍を検討・購入
- 16 日(木) 愛知教育大学岡田安代先生を訪問 カリキュラム・教材の検討
- 20 日(月) カリキュラム試案作成
参加する子どもの設定(大城保育園児で、大城小以外に入学する子どもも対象とした)
- 24 日(金) 知立市立知立東小学校 中川郷子先生のカウンセリング・日本語指導視察
- 27 日(月) 大城保育園を訪問
保育園に迎えにきた保護者に、開講の説明 参加申込書手渡し
参加する子ども 3 名に O B C テスト 語彙タスク 40 問・簡単な面談
- 28 日(火) 参加する子ども 3 名に O B C テスト 語彙タスク 40 問・簡単な面談
保育園の先生方に参加する子どもの様子の聞き取り
- 12 月 1 日(金) 授業開始
- 4 日(月) 参加者名簿作成
- 7 日(木) 時間割変更
- 20 日(水) 豊橋市教育委員会外国人教育相談員 築樋博子先生を訪問 カリキュラム・教材の検討

平成 19 年

- 1 月 12 日(月) 100 問語彙テスト実施
- 13 日(火) 100 問語彙テスト実施
大城小学校学区内に在住し、来年度就学する年齢の外国人の子ども(就学意思未確認のものが殆ど)をもつ保護者宛に開講案内・参加申込書を発送
- 15 日(木) 小牧市教育委員会学校教育課指導主事 森川智之氏が視察

語学相談員に開講案内のタガログ語・英語翻訳依頼

- 2月 1日(木)～9日(金) 10日(土)の保育園生活発表会の練習のため授業中止
 5日(月) 大城小学校の教職員を対象にプレスクールに関するアンケート実施
- 3月 19日(月)～23日(金) 24日(土)の卒園式の練習のため午前授業中止
 19日(月) 100問語彙テスト実施 修了証書授与
 22日(木) 100問語彙テスト実施 修了証書授与

(2) 概要

・会場

小牧市立大城小学校 国際教室 ANIMO 内の一角(教室の1/3)

・送迎・保険

大城保育園 大城小学校間(片道徒歩3分程度)を講師が送迎した。

その間の保険は、

大城保育園に在籍していない子どもについては、保護者が送迎できることを参加の条件とした。

・参加・不参加の理由(保護者より)

参加

保育園に通っているのですが、集団生活上の心配はとくにしていないが、入学後の学習は少なからず心配なため

無料であるため

就学前に外国人向けにこのような勉強の機会があるのはとても良いことだと思うので

不参加

別の保育園から移ってきたばかりで、内向的な性格なので、まずは保育園に馴染むことを最優先にしたいため(大城保育園に在籍していたが参加希望しなかった)

ブラジル人学校に通うことに決めている(大城保育園以外の保育園に在籍)

送迎が不可能(大城保育園以外の保育園に在籍)

・対象の子ども

全員保育園に通って長いため、生活上の日本語でのコミュニケーションに支障はない。また、ポルトガル語やスペイン語でのみ記憶している語彙もあったが、基本的にポルトガル語やスペイン語で会話することはなかった。講師もポルトガル語を1度も使わなかった。

	氏名	国籍			入学予定
1	N . M . K	ブラジル	男	大城保育園	大城小
2	M . K . N	ブラジル	女	大城保育園	光が丘小
3	D . E	ペルー	女	大城保育園	大城小
4	I . Y	ペルー	女	大城保育園	光が丘小
5	T . M	ブラジル	女	大城保育園	光が丘小
6	D . D . H	ブラジル	男	大城保育園	桃が丘小
7	T . Y	フィリピン	男	1年前まで大城保育園に在籍 現在不就園状態(プレには1月末～4回出席)	大城小

授業日・時間割

小学校と保育園の時間割をすり合わせ、小学校の給食や清掃、保育園の主活動時間や給食・おやつの時間を避け、以下の時間割となった。基本的に1人につき週に2回授業。

	月曜	火曜	木曜	金曜
11:00-12:00	1,2		1,2	
13:30-14:30	3,4	5,6,7	3,4	5,6
14:45-15:45				7

2. 内容

(1) 目標

- ・目的：公立学校に入学する予定の外国人の子どもうち、保育園や幼稚園に通っていなかったり、外国人向けの託児所にいたりした子どもは、日本語力の不足や公立学校の制度・習慣に馴染めず、授業についていけないまま取り残されることがある。このことから、就学前に日本語や生活習慣を学ぶことで、就学後よりスムーズに学校生活を送り学習に取り組めるようにする。
また、保育園に通っており、日本語での日常会話はできる子どもでも、日本語の語彙の量が日本人児童よりも少ないことが多く、また国語以外の教科でも必要になる日本語のことばやその説明に触れる機会がない。このことから、就学後に遅れをとりがちな項目に触れておき、基本的な語彙を少しでも増やしておく。
- ・設定目標：学校生活に早く適応するために、日本語の環境に慣れ親しむこと
文字・語彙・表現：ひらがなの音、読み書きに親しみ、より多くの語彙・表現に触れる
数：数（10まで）を理解する
大小・多少・同じ・どちらが・何番目、などのことばと概念を理解する
生活：挨拶、返事、よい姿勢を身につける

(2) 指導内容

- ・指導予定（略案） は上の設定目標と対応

12月	1月	2月	3月
ひらがな50音に慣れる、 運筆力をつける 5までの数 あいさつ、返事、座る 姿勢	ひらがな読み書き(あ ～さ行)、語彙 10までの数 あいさつ、返事、聞く 姿勢	ひらがな読み書き(た ～ま行)、語彙 10までの数、量 あいさつ、返事、聞く 姿勢	ひらがな読み書き(や ～わ行、ん、濁音)、 語彙 多少の比較、番目 あいさつ、返事
【日本語学級】より 語単位の表現 語彙：身の回り	語彙：身の回り、持ち物、 学校、食べ物・飲み物、 果物、野菜、動物	語彙：天気、親族名称、 形容詞（形状、感覚、感 情）	語彙：形容詞、動詞、オ ノマトペ（擬声語）

・実際に指導した内容

子どもたちに直接会う前に指導計画を立ててみていたが、実際には子どもたちは予想以上にできたので、内容を調整しながら進めた。下段カッコ内は導入した語彙数。ただし、知っていたもの多く知らなかった語彙は毎回3~6(多いときは8以上のことも)程度になるようにした。

12月	1月	2月	3月
ひらがな50音に慣れる、 運筆力をつける 5までの数 あいさつ、返事、座る 姿勢	ひらがな読み(あ~な行)書き(あ行)、 語彙 10までの数 あいさつ、返事、聞く 姿勢	ひらがな読み(は~わ行、ん)書き(か行)、 語彙 15までの数、量 あいさつ、返事、聞く 姿勢	ひらがな読み(濁音・半濁音)書き(さ行)、 語彙 多少の比較、番目 あいさつ、返事
【日本語学級】より抜粋 いい・だめ ぼく・わたしはNです Vてください(TPR) ある・ない こう・そう・ちがう 同じ・ちがう 上下右左中 など	語彙：身体の部位(5)・顔の部位(5)・文房具(11)・持ち物(13)・教室の中(12)・食べ物・飲み物(17)	語彙：果物(14)・野菜(15)・動物(17)・天気(5)・形容詞(24)	語彙：動詞(33)・生活用品(14)・色(15)・施設・店名(13)・形(3)・親族名称(8)・乗り物(8)・助数詞(4)

・指導内容の計画の上で参考にしたアンケート

学校の先生方に対するアンケートをH19年2月5日(月)~9日(金)の期間で実施した。

目的：就学後、または編入後の外国人児童の担任教員が、生活面・学習面での指導のうえでどのような点に困難を感じておられるかを聞き取り、プレスクールでできることの可能性を探るため。プレスクールと就学後のつながりをより円滑にするため。

聞き取りを行うことができた先生方もいらっしゃったが、児童数が800名を超す大規模校で、教職員全員に対して聞き取りを行うことは困難であったため。

結果：配布数46 回収数12

回答は以下の通り

生活面・言葉が出ないときも、人やものをたたいたり蹴ったりしない

- ・言われたことなど、わからないときはわからないと言う 友達や先生に聞く
- ・勝手に人のものをとらない
- ・連絡帳に書く 持ち物・用具をそろえる
- ・がまんしなければならないこともあることを覚えてほしい
- ・保育園に通っていない子の場合、集団生活に慣れるまでずいぶんかかる
- ・自分の係、当番などの仕事ができるように
- ・言葉が通じないため、ブラジル人ならブラジル人どうして固まってしまうことがある
- ・学校に最低限の電話連絡ができるように

学習面・日本人と較べて語彙が少ないので補充してほしい

- ・1年生国語で出てくる、序数詞(個、枚、本、冊、匹・・・など)を早めに覚えさせてほしい
(複数回答あり)

・カリキュラム作成上参考にした書籍・資料

豊橋市教育委員会「日本語指導カリキュラム案」「プレクラスカリキュラム案」

作成者不明(カナリーニョ教室)「初期指導用カリキュラム」

「子供のための日本語教育」アルク

東京外国語大学留学生日本語教育センター編

「外国人児童生徒のための日本語指導1 カリキュラム・ガイドラインと評価」(1996)

「日本語学級1」

「こくご1」

「わくわくさんすう1」啓林館

エンゲルマン夫妻著・松原達也編訳「ボクできちゃた～5歳までの算数の教え方」p.116,128,136,326

コンスタンス・カミイ「幼児の数の指導」チャイルド出版 pp.106-137

横地清「保育実践の系統化・数と空間」(1976) 中教出版

・使用した教材

運筆:「うんぴつ6 やさしいめいる1集」 くもん出版

文字:「ひらがなのれんしゅう」 教育同人社

「幼児のおけいこシリーズ ひらがなだいすき3さい」ダイソー

「ひらがなカード」くもん出版

50音表

語彙:「4さいのこくごあそび 園児のほーむわーく」教学研究社

「かずとことばのトレーニング 4さい ママできるよ」教学研究社

「かずとことばのトレーニング 5さい ママできるよ」教学研究社

「幼児のおけいこシリーズ ことばのれんしゅう5さい」ダイソー

「幼児のおけいこシリーズ ことばのれんしゅう6さい」ダイソー

自作絵カード

「たべものカード」くもん

*字カード、絵カード、算数セットは

「のりものカード」くもん

国際教室 ANIMO のものをお借りした

「お店・施設カード」くもん

「くだもの・やさいカード」くもん

「こどものにほんご1 絵カード」

愛知教育大学日本語リソースルームからいただいた画像データ

知立市立知立東小学校からいただいた画像データ

数:「かず・けいさん3 やさしいかずかぞえ」くもん出版

「多胡輝の NEW 頭脳開発 かず5歳」学研

「幼児のおけいこシリーズ すうじだいすき3さい」ダイソー

「幼児のおけいこシリーズ かずだいすき4さい」ダイソー

さんすうセット

その他:「幼児のおけいこシリーズ むりえあそび3さい」ダイソー(100円ショップ)

「幼児のおけいこシリーズ ちえあそび3さい」ダイソー

「幼児のおけいこシリーズ めいるあそび4さい」ダイソー

「幼児のおけいこシリーズ ちえあそび4さい」ダイソー

「幼児のおけいこシリーズ ちえあそび5さい」ダイソー

「幼児のおけいこシリーズ ちえあそび6さい」ダイソー
 その他自作の絵カードなど

・1コマ(60分)の時間の使いかた(例)

のように、1コマを大きく4つの活動に分けた。時間は大体の目安。

が「今日のメインの学習」

時間	内容	教材・備考
8 導入	ひらがな 読み (1字ずつ 復習がてら2~4字の語彙) あいうえおの歌 の後、FC、かるた、無言かるた(字を見て対応する絵をとる)神経衰弱などゲーム的に。	50音表、ひらがな語彙読み練習用カード(絵・字対応)
5'	前時の復習	
16' 学習	語彙(今日のメイン) 基本的に聞 言 読(書 できるところは で)の順で。 TPR、かるた、文字数勝負、3ヒントゲーム他、様々に。 日常会話のできる子どもたちなので、学習する語彙に何度も触れるだけでなく、関連事項を口頭で説明するなどのタスクも入れた。	自作絵カード、くもん絵カード、レアリア、人形など 立ったり動いたりする活動を間に挟みつつ、だんだんその時間を減らしていくようにした
8	学習した語彙に関するプリント/または数の学習プリント	ダイソーやくもんなどの教材
15'	ひらがな 書き練習	ひらがなシート
3 終了	出席シールを貼る、プリントをファイルに綴じる 文房具などの使ったものの片付け	
5'	自由時間(集団遊び)、絵本など	スーパーボール、ダルマ落とし、福笑など

保育園 学校間の往復時、自動車の通らない場所では、じゃんけんダッシュ、影踏み、擬音語遊びなどをしながら歩いた。自動車は通らない道だが、横断するとき毎日、「右・左・右」を言い左右を確認するようにした。

3. 実施後の変化

(1) 子どもたちの変化

【学習面での変化】

・100問語彙テスト

OBCテストの語彙タスクをもとにした、小学1年生向けの100問語彙テスト(豊橋市教育委員会・築樋博子先生作成)を、平成19年1月と、3月の学習最終日に行った。

カリキュラムはこのテストだけを考えて作ったものではなかったため、テストに出る語彙を扱っていないこともあれば、テストに出ない内容を扱ったことも多かった。予定外の授業中止日などもあり、すべて予定通りに順調に進んだともいえない。このテストが学習した成果の全てを表すものであるとはいえないが、一つの目安になると考え、実施した。

100問語彙テスト結果（H19年1月・3月に実施）

	氏名	1月11・12日実施	3月19・22日実施	ポイントの変化
1	N . M . K	83	92	+ 9
2	M . K . N	79	94	+ 15
3	D . E	89	96	+ 7
4	I . Y	66	79	+ 13
5	T . M	86	93	+ 7
6	D . D . H	70	86	+ 16

- ・語彙を積極的に覚えようとするようになった
- ・えんぴつがもてるようになった 書く線が安定してきた
- ・掲示物、看板など、書いてあるものはなんでも読もうとし始めた
- ・集中力がついてきた
- ・ひらがなの読みを覚えたことで、保育園や自宅にある知育教材、絵本などからことばを書き写すなどして、自分で語彙を増やすことができるようになった子がいた
- ・個別には次のとおり

	氏名	
1	N . M . K	語彙力もついたが、集中力がついたことが大きい。ほとんどの時間座っていることができなかつたが、3月時点では1人でもプリントに取り組むことができるようになった。
2	M . K . N	ひらがなの読みを急速に覚えたことから、自分で教材や絵本に触れ語彙を増やすことができるようになった。このことから、語彙力の伸びが大きかった。
3	D . E	語彙力は比較的高かったが、基礎があり、新しく学ぶものもすぐに覚えることができた。ひらがなの書きやプリントなど作業の要領をつかむことができた。
4	I . Y	ペースはゆっくりだったが、確実に語彙力を伸ばした。甘えん坊だったが、3月時点では1人で学校内を移動したり、教師に許可をもとめる発言ができるようになった。
5	T . M	もともとひらがなの読み書きや語彙力はあったが、より国語的な表現(オノマトペに慣れる、助詞に気をつける)に慣れることができたと思う。入学後にも取り出しはほとんど不要ではないかと思われる。
6	D . D . H	語彙が急激に伸びた。11月時点では2語文がほとんどだったが、3月時点ではより複雑な表現もできるようになっていた。口数は少ないが、教室での流れの理解も早く、積極的に手伝うようになった。

【態度、生活習慣などの変化】

- ・教師の手助けをいやがり、自分の力でやろうとするようになった。
例)「全部いえるから、先生何も言わないでー」
- ・だんだん、長い時間座っていられるようになってきた。姿勢はまだ崩れる子もいる。
- ・授業の流れを理解し、次になにが必要かわかるので、自分から準備したり片付けたりできるようになった

- ・指示に従うことができるようになった。信頼関係ができるにつれ、ラインは守るようになった。
- ・ひとりでも（学校の）トイレにいけるようになった。
- ・会った人会った人にあいさつができるようになった。ただ性格的に最初のうちは自分から言えない子もいる。
- ・叱られた後、謝ることができるようになった。ただ、まだ手が出る子もいる。

【その他所感】

- ・保育園のほかの子よりも自分の知っている語彙が少ないことを（無意識のうちにか）感じている子どももあり、そうした意識が言葉のはしばしにみられた。
「Aちゃんはこれ知らんもんねー」「わたしはたくさん覚えたもんねー」「Bちゃんはこれできないよね、わたしは知ってるけどー」など、お互いに言い合うことが何度かあった。
何度か授業をしていくうちに、本人たちがなんとなく感じていたそれを穴埋めするものだと気がついた子がいた。
- ・（変化ではないが）今回対象となった子どもたちは保育園生活の中でも、母語を用いることになんとか抵抗がある子どもが多かった。子どもたちの口からは「（日本の）保育園ではスペイン語使っちゃダメ」という言葉も聞かれた。禁止されているわけではないが、日本の保育園に「適応」するために、無言のうちに何か感じていたものと思われる。既に、聞いて分かるが口からは出ない、という状態になっている子もいたが、適応しようとする姿勢がその状態をより促進しているように思われた。
- ・簡単すぎるからいきたくない、といわれたことがある。その反省をもとに授業も少しずつ変えてみた。いきたくないといふのはその1回だけで、それ以降は毎日来た。

（２）保護者からの声

- ・知り合いの小学生から、小学校は厳しいし難しいからいやなところだと聞いていて、本人も小学校に行くのをいやがっていたが、プレスクールに行くようになって、勉強することが楽しくなり、入学が楽しみになった（M 母）
- ・保育園のほかの子はひらがなの読み書きができている子もいるので、本人は焦りを感じている。そのため、プレスクールで勉強することを楽しみにして通っている。就学前にこのような機会があるのはとても良いと思う（E 母）
- ・これまで文字に興味を示さず、どうしたものかと思っていたが、最近は家でもプレスクールで習ってきた歌を歌い、あちこちで目に入る文字を読みたがるようになった。ひらがな（清音・濁音）の読みはすべてプレで覚えた。自発的に絵本や知育教材に載っていることばを、ノートに書き取るようになった。（K 母）

（３）保育園からの声

- ・集団生活は保育園でしているし、学習については保育園ではそんなに見ないので分からないけれども、子どもたちは毎回喜んで行っていた。

4. 反省・課題

(1) 対象となる子どもの設定について

対象とする子どもは早めに設定すべきである。

今年度の小牧市のプレスクールの場合、当初は、大城保育園に通園しており大城小学校に入学する予定の2名(表中の番号1・3)だけが対象であった。この2名は1月時の100問語彙テストの結果にもあるように、もともと正答率80%台の語彙力があつた。大城保育園に在籍しており光が丘小学校や桃が丘小学校に入学する予定の子どもにも同様のテストを行い、そのレベルや保育園の先生方からのお話から、この子どもたちも対象とすることにした。

保育園や幼稚園に通園しておらず自宅にいる子どもや、外国人向けの託児所、外国人学校に在籍している子どもの場合、この語彙テストの正答率は10%に満たないことも多い(豊橋市教育委員会の資料による)。語彙テストが日本語力の全てを表すものではないが、一つの目安となるのは確かで、こうした子どもたちが就学後により困難な状態になるのであり、プレスクールの必要性が高いことは言うまでもない。

当初、大城保育園に在籍している子ども以外で、大城小学校に入学する予定の子どもに声をかけることができなかつた。1月中旬に開講案内を郵送したが、電話や訪問で一件ずつ当たることが出来たら一番良かったのではないと思う。他の保育園に通っていたり、ブラジル人学校に入学する予定だったり、送迎が不可能だったり、といった理由で、結局今回は、そこから受講する子どもは現れなかつたが、11月の時点で声をかけるべきだった。

以下は手順の案(来年度の参考までに)。

開講案内・参加申込書の作成

大城小学校の場合、ポルトガル語のほか、スペイン語、タガログ語の翻訳が必要になったので、早めの作成が必要である。

子どもの設定

受け入れられる人数を考えつつ声をかける。11月は、就学案内を受け取った保護者が、子どもの来春の入学予定についての意思を明らかにする時期で、まずそこから、会場となる学校に入学する外国人の子どもをチェックし、声をかける。入学するかが不明な場合は、電話でも確認したい。語学相談員の方がされている場合もあるので、連絡をとりながら。送迎についての心配は、その後ですればよいのではないかと。話してみれば、送迎可能な父兄や親戚がいるかもしれない。

レベルチェック・面談

できるだけ早めにレベルをみたほうが良い。開講前、11月の1ヶ月間が準備期間としてあてられたが、カリキュラムを考えるにも、適した教材を用意するにも、まずは対象となる子どもに直接会うことから始まる。今年度は11月最終週に行ったが、遅すぎた。カリキュラムなども、子どもを見ないまま試案を作成せざるを得なかつたので、効率が悪かつた。

クラス分け・時間割決め

会場となる学校と、保育園の時間割、または自宅から子どもを送迎する父兄の都合などを勘案し、クラスを分け時間割を作る。

カリキュラムづくり

をもとにカリキュラムを作成し、必要な教材を準備する。

(2) 連絡・連携について

・大城保育園との連携

子どものプレスクールへの送迎の際に、職員室に寄って行事予定の確認や子どもたちの様子についての連絡をとった。協力的だったが、生活発表会や卒園式の準備のため、授業日数が一人につき予定より4~5回少なくなってしまったのは残念である。事前に行事予定などを考慮したうえでのスケジュールを組み、活動ができればよかった。行事に非常に力を注ぐ保育園であることも大きかったようであり、それは在籍する子どもに対してはある面で当然のことでもある。しかし、日常会話に支障がなく、コミュニケーション上問題がない子どもたちが対象であったため、強い危機感はお持ちではないという面の表れともとれた。生活上の日本語力に問題がなくとも、学習での日本語はそれとは異なること、保育園に通っていても就学後の何年目くらいから、どのような学習項目が困難になってくるか、といったことも、最初のご挨拶、開講案内からその後も日常的に地道に、かつ積極的にお伝えしてゆく必要があったと思う。

・大城小学校との連携

机やイスをはじめ、こまごまとした物品の準備や、アンケートへの回答など、非常に快く協力的にしていた。お心遣いに感謝している。コピー機その他の使用も自由にさせていただくことができ、授業の準備に何一つ不自由のない状況だった。学校行事(修了式や、1年生と保育園児・幼稚園児の交流会など)にも自由に参加させていただいた。1年生の国語の授業を見学させていただいたことも非常に参考になった。

また講師個人としても、ロッカー、名札、靴箱、職員室内や国際教室内の机、PCまでご用意いただき、机の中には文房具一式を揃えて頂いてあり、非常に有難かった。

児童やその保護者との間の通訳は市の語学相談員の方の担当であったが、相談員の方がご不在の場合や緊急の場合は通訳に入るようにした。

・国際教室との連携

教室の後ろ1/3ほどをお借りし、騒音などご迷惑をおかけしたことは多数あった。ただ、プレスクールの子どもたちには、小学生と同じ部屋で同じように学習したり、学習後のシールを小学生と同じシートに同じように貼ったりすることなどから良い影響が多かったように思われる。学習への意欲が生まれたり、立ち歩きが極端に減ったりした一因はそこにあるのではないかと思う。

また、国際教室にある教材(くもんの絵カードなど)を毎日のようにお借りした。幼児向け教材を国際教室の予算でご厚意で購入していただいたこともあった。非常にお世話になった。

教員同士としても、教え方を見て学べることは多かった。僭越ながら、私の教え方からも色々取り入れていただいたりした。来年度入学してくる子どもの様子を知っておいていただけたりする点でも良かったと思う。国際教室は慢性的に人手不足であったため、時間的に余裕があるときは児童の個別指導にあたりたり、ポルトガル語で相談や悩みを聞いたりするほうにまわるようにした。また、教え方やゲーム、教材などの紹介なども行った。プレスクール向けだけではなく、国際教室向けの教材も多く作成し、残るようにした。

市の語学相談員、日本語指導員の方にも、文書の翻訳など、日常的にお世話になった。

・保護者との連絡

11月、保育園に子どもを迎えにみえた際にプレスクールの開講について説明を行った。きちんとした時間を設定できず、お迎えの数分~長くても20分くらいの間しかなく、この方法は再考したい。その後、プレスクールでこういった内容を扱っているのか、子どもたちはプレスクールで何をしているのかを少しでも知

っていただくために、学習したプリントを綴じたファイルを週末2度ほど持ち帰らせた。

上の3(2)保護者の方からの声は、特に機会を設けたわけではなく、学校やその他の場所で会ったときに聞いたものであるが、きちんとアンケートをとるなり、もう一度保育園のお迎えの時間帯に出向いて話を聞けばよかった。

・教育委員会との連携

今年度はあまり連携をとることができなかったが、公立学校に通うことになる外国人の子どもを教育を考えたとき、教育委員会のご理解ご協力が不可欠である。来年度からより密に連携がとることができたら、よりよい活動ができるのではないかと思う。

・全体的に

時間は限られているが、新規事業であっただけに、各方面にアンケートなどを実施し、ご意見をいただくよう心がけるべきだった。

(3) 授業時間について

今年度は60分授業であったが、1コマ90分にできたらと思う。最初のうちは、長時間の学習は無理であると思われたが、実際に授業をしてみると可能なように思われる。幼児向けの学習塾などでも、15分程度の活動を4~5つ入れるかたちで行っているところがあるということだ。また、日が経つにつれ、ちょうど学習の調子がのってきたところで、ちょうどもう1つ何かしたいところで、時間が終わってしまうことが多くなった。90分が長いのであれば、間に休憩を入れ、トイレに行ったり遊んだりすること、また机に戻ってきて次の学習に切り替えることなどしても、習慣として取り入れるには良いように思われる。

(4) 会場の選定について

11月当初、大城小学校校区内に在住し、次年度4月に就学する年齢となる外国人の子どもは11名であると伺っていた。大城保育園に通っている以外の9名の子ども保護者に対し、1月上旬にプレスクールの案内を郵送したが、他の保育園に通っていて送迎が不可能であることなどから受講できる者はいなかった。また、平成19年度4月に大城小学校に入学するのは結局、プレスクールに参加していたN・M、D・E、T・Yの3名のみであることが分かった。この3名は保育園に通う外国人の子どもの中でも日本語がよくできるほうであった。D・Eに関しては、就学前からひらがなを覚えるために家庭教師についたり、個人の塾に通ったりしている。彼女に限らず、大城小学校校区の父兄は概して教育熱心であることで知られる。また、小牧市は県内でも不就学率が低い市である。

国際教室の雰囲気もよく、学校も非常に協力的であったので、プレスクールを実施するには有難い会場であったことには違いない。日本語での日常会話がよくできるといっても、こうした子どもたちに対しても、2内容(1)目標で記したように、また実際ある程度の伸びがみられたように、行うべきことも決して少なくはない。もちろん、この地域のプレスクールの対象になる子どもが毎年似たようなレベルにあるとは限らず、今年度の子どもたち以上に急を要する状態の子どもも出てくる可能性はないとはいえない。しかし、県内の各地からは更に深刻な状況が聞かれることから、プレスクールを開講する会場として適当か再考の余地があるのではないかと思う。